

# 鹿野祭り

宵祭り 4/13(土) 本祭り 4/14(日)

400年の歴史を誇る  
古式ゆかしい祭礼



城山神社の例祭はもとは妙見祭といわれ、亀井氏在城中は春と秋の2回賑やかに行われていましたが、亀井氏の津和野移封後は中断しました。

しかし、藩政時代の後半になると経済文化も発展し、鹿野の住民による「町おこし」として妙見祭復興の気運が盛り上がり数度の願書提出の結果、ようやく、文化10年(1813)許可され鹿野祭りとして復活しました。以来、現代にいたるまで連綿と続けられています。



## 鹿野を眼下に見下ろす ～城山神社(しろやまじんじや)～

城山神社は、もとは加知弥(かちみ)神社の摂社で、古くから妙見大明神と称し鹿野の町民から崇敬されていました。素盞鳴尊(すさのおのみこと)を祀り、亀井氏在中は城内鎮守として重く祀られていました。社殿は大きくありませんが、その構造・彫刻は精緻を極めていす。



## 鹿野祭りの華 ～役面(やくめん)～

祭礼を取り仕切る7町内の若連中の頭「役面」は、鹿野祭りの華。役面は祭りの進行から紛争まで処理する権限をもっており、祭りは役面連中により取り仕切られています。

この役面連中の中で、祭りの幹事ともいえる年行司(ねんぎょうじ)を受けた町の役面は、年行司役面として祭りのクライマックスで「目録(もくろく)」を奉読します。役面は鹿野の男の子なら一度はあこがれる祭りのスターといえます。



## ～祭礼が行われるまで～

祭礼は1月2日の若連中の初寄合いで始まり、1月28日の総集會、4月7日の御神事場調(ごじんじばしら)べ、宮掃除、屋台建て・締張り、4月13日宵祭り、4月14日本祭り、4月15日屋台とろきで終わります。

(近年は、準備などを日曜日、宵祭り・本祭りは4月の第2土日に行われています)

# 宵祭り

(よいまつり)

【日程】 令和6年4月13日(土)

- 登山** 18:00 榊・獅子など7町内が城山神社に集結します。
- 下山** 19:30頃 神社で神事を行った後、榊を先頭に行列が下山。祭りのスタートです。
- 御旅所** 22:00頃 行列は町内を練り歩き、翌日の行列の出発地点である大工町に集結。神事を行います。



御神体が一夜を過ごす御旅所(おたびしょ)

## ～宵祭り(よいまつり)～

宵祭りは城山神社で御神輿に御神体を迎え神事を行った後、鍛冶町の高張提灯・太鼓・笛・榊、各町々の御供、上町の狸々・獅子(神楽獅子)、殿町の御神輿、神官、後供の順に下山します。

この下山が始まると、榊・御神輿の足元を照らすように紺屋町の綱灯笼(つなどうろう)に灯がともらいます。神社の裏の樹から山麓の二ノ丸の樹に張られた2本の綱に次々と提灯に灯をともし繰り下げていきます。やがて長い火の綱となり、闇の中にきらめきます。(この長さなんと180m)



城山の上にある神社では、厳かに神事が執り行われます。お清めを行い、御神輿に御神体をむかえ、獅子舞が奉納されたあと、行列は下山を始めます。



城山神社の鳥居前には各町から2人ずつ鳥居番(とりいばん)とよばれる番人が配置され、神社への出入りの監視にあたります。



鍛冶町の榊を先頭に行列は進みます。榊は左右に練りながら進みますので周囲の人が榊に近づき過ぎるととても危険です。見物人の方はお気を付けてください。



各町の宿(やど=祭り運営の拠点)には宵祭りの日に宿飾りといわれる屋台飾りがおかれます。写真は下町宿です。随神の衣装などが飾られ大変華やかです。

## 「桜のライトアップ」 ～鹿野桜まつり2024～



鹿野城跡公園の桜をライトアップします。水面に映る幻想的な夜桜をお楽しみください。

日時 3月22日(金)～4月14日(日)  
18:00～21:30

◆臨時駐車場  
鹿野町総合支所駐車場  
鹿野町農業者トレーニングセンター駐車場  
河内川河川敷駐車場